

第53回社会教育研究全国集会（千葉集会）ご案内

人をつなぎ、暮らしと地域をつむぐ ～千葉の地で学びの力をたしかめよう～

構造的貧困や子ども・若者たちが未来に希望を持つことができない状況の拡大、東日本大震災後の政治や社会の混迷状況など、私たちが暮らす現代社会の課題はますます深刻になっています。また、各地では自治体改革・再編の動きが見られる中で、公教育システム、とくに公的社会教育の後退が進んでおり、それらはそのまま人々の生命、生活、教育、文化などをいかに保障していくのかという切実な課題をつきつけています。

こうした状況の中で、新たな第一歩を踏み出すために、これまでの社会教育の蓄積を確かめあい、そして、私たちにいま何ができ、何をすべきかをしっかりと考えあうことが極めて大切です。

千葉県では、これまで佐倉（1964年）、成田（1981年）、木更津（1993年）の3回にわたり、社会教育研究全国集会を開催した経験を持っています。いずれの集会も、そこに集った千葉県内はもとより全国のさまざまな実践、そして人々との学びあいや交流は、その後の社会や地域を築く活動に大きな力を与えてくれました。

折しも社会教育推進全国協議会（社全協）結成50周年という節目の年、ここ千葉の地で20年ぶりに開催する全国集会で再び互いに学びあう中で、未来を切り拓く活力を分かちあいたいと願い、この集会を開催するものです。どなたでも参加できます。多くの皆さまのお越しをお待ちしております。

期 日 2013年8月3日（土）・4日（日）・5日（月）

会 場 千葉大学教育学部校舎ほか 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

JR西千葉駅より教育学部棟まで徒歩約12分 京成電鉄みどり台駅より教育学部棟まで徒歩約9分

主 催 第53回社会教育研究全国集会千葉県実行委員会 社会教育推進全国協議会

後 援 千葉県 千葉県教育委員会 千葉市 千葉市教育委員会 千葉県公共図書館協会 千葉県公民館連絡協議会 千葉県博物館協会 朝日新聞千葉総局 千葉テレビ放送 千葉日報社 毎日新聞千葉支局 読売新聞東京本社千葉支局

日 程

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
3日（土）				受付	第一全体会		移動	課題別学習会	移動	全体交流会 （夕食）			
4日（日）			分科会	昼食		分科会			移動		この指とまれ （自由交流会）		
5日（月）			第二全体会		※全国委員会								

参加費 集会参加費 5,000円・学生 3,000円・1日参加 3,000円（集会資料集および報告書を含む）
千葉県内参加者（在学・在勤者を含む）一律 2,500円 ※高校生以下無料
全体交流会費 3,000円 **4日昼食（弁当/お茶付）** 700円

第1日目 8月3日(土)

■第一全体会(13時00分～15時00分) 場所:千葉大学教育学部2号館1階 大講義室
・開会行事/基調提案

リレートーク「千葉の地で学びの力をたしかめよう」

千葉には、戦争遺跡や歴史・文化遺産の再発見を行い、平和の大切さ、先人の知恵、房州の魅力を次の世代につなぐNPOの活動や、さまざまな立場の生徒たちが公立中学校の夜間教室で学ぶ姿、地域の人々とともに歩むために自分自身の学びを深める公民館職員の奮闘、そして、人々の学びを支える生きた空間としての社会教育施設など、さまざまな学びと社会教育の姿があります。…学びの力のたくましさ、千葉の地から4本のリレートークで発信します。

■課題別学習会(15時30分～17時30分) 場所:千葉大学教育学部棟 各教室

No.	課題別学習会名と主な討議の内容	世話人
1	東日本大震災と社会教育 東日本大震災以後、社会教育研究全国集会では、甚大な被害に見舞われた岩手・宮城・福島の実態の中から、いかに社会教育の活動や蓄積が復興にかかわり持ち得ているのかの検証とそこから得られる課題を追求してきた。継続して、地域の実態に即しての内発的発展型の復旧・復興の在り方を追求していく過程にあるのだが、このなかで、貧困・格差の問題が浮き彫りになり、人間らしく生きるために必要不可欠な社会的活動が衰退してきている。この課題を携えながら、開催地の千葉の被災から立ち上がるまちづくりの活動から、地域の活動をいかに生み出していかを検討する。さらに、これらが一部の地域の問題ではなく、自らの問題として取り上げる学習実践の事例からも学ぶ機会にしたい。	上田 幸夫 片岡 了 田中 潮 千葉 悦子
2	若者支援における社会教育の役割と課題～生きづらい社会に生きる若者たちと向き合うために～ 貧困と社会的排除が深刻化する生きづらい社会のなかで、多くの若者が切実な困難を抱えながら生きている。このことは、ワーキングプア・ネットカフェ難民・ひきこもり等の言葉とともに社会的課題として広く認知されてきたが、社会教育ではどのような取り組みが可能なのだろうか。青年教育の空洞化傾向が著しい社会教育行政や公民館の今日的状況を謙虚に認めながらも、若者支援における役割と課題を掘り下げてみたい。文部科学省でも、2013(平成25)年度、「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」のひとつに「若者の自立・社会参画支援プログラム」を位置づけ、地域若者サポートステーションやNPO等と連携した若者支援の取り組みに対して予算を計上している。この動向も視野に入れながら議論を進めたい。	井口啓太郎 大串 隆吉 越村 康英 島本 優子 丹野 春香 渡会 真琴
3	家庭・学校・地域とつながる生徒たち～長野県・辰野高校の実践から学ぶ～ 学校と地域の連携事業に、社会教育がかかわる取り組みが広げられようとしている。2006年に教育基本法が改定されてからその流れは加速している。しかし、社会教育と学校教育の連携をめぐっては可能性とともに課題も多い。本課題別学習会では、長野県辰野高校での三者協議会やフォーラムの実践に教員としてかかわり、地元高校生と地域住民とによる町おこしシンポジウムの取り組みなどをされてきた宮下与兵衛さん(首都大学東京・元辰野高校教員)に報告していただく予定である。そして、参加と共同の学校づくりの取り組みが、地域とつながっていった過程を報告していただきながら、それを社会教育の視点から捉え直していく議論をこころみたい。	荒井 文昭 廣田 健 村田 和子
4	自治体改革・再編と社会教育 今日の社会教育行政をめぐっては、その担い手を地域や市民に「委ね」ながら、そこに評価を導入しながら行政効率を求めようとする新たな再編の論理が多彩に提起されている。こうした自治体改革を誘導してきた政府は今日、「アベノミクス」経済改革、憲法96条さらには9条改正、TPP交渉参加の強行、教育再生実行会議の議論をもとにした教育改革など、新たな踏みだしを示しているが、その先には一体何があるのか。本課題別学習会では、国のかたちがいまどのように変更させられようとしているのかをとらえつつ、そうした事態を読み解き、真に持続可能な未来を導く力を育むためのこれからの社会教育の展望と課題を検討したい。	石井山竜平 川野佐一郎 姉崎 洋一
5	日韓交流20周年記念(日韓セミナー) 全国集会に韓国から初めて金信一さん(当時韓国社会教育協会会長・ソウル大学教授、後に副総理兼教育人的資源部長官)・李宗満さん・高淳喆さんの三人が参加したのは、今から20年前の第33回社会教育研究全国集会・木更津集会(1993年8月)であった。90年代から胎動しつつあった日韓社会教育交流は徐々に草の根交流へと広がり、社全協代表団が韓国社会教育協会(現韓国平生教育総連合会)の行事に参加したり、近年では韓国から毎年20人程が全国集会に参加してきている。本課題別学習会では、木更津集会時の社全協委員長でもあった小林文人さん(東京学芸大学名誉教授、前韓国平生教育総連合会会長・金南宣さん(大邱大学教授)から、日韓交流20年を振り返っていただきながら、未来にむけた日韓交流の課題を提示していただく予定である。	浅野かおる 呉 世蓮 郭 珍榮 金 宝藍 笹川 孝一 長澤 成次
6	社会教育・公民館入門 戦後、連合国総司令部(GHQ)占領政策の一環として、民間情報教育局(CIE)の教育映画が全国各地で上映、千葉県内の各市町村でも盛んに行われた歴史がある。それらは、使用されたナショナル・カンパニー社製映写機の略から「ナトコ映画」と呼ばれ、日本の戦後の社会教育を理解する上で大変重要な軌跡である。本課題別学習会では、実際に当時の16ミリ映写機を使用したCIEフィルムの鑑賞と解説をとおして、草創期公民館の息吹きや視聴覚教育の源流にふれつつ、参加者間で社会教育の役割や課題について学びあいたい。	新海 英行 杉山 拓也 高橋 邦夫 田所 祐史 中村 亮彦

No.	分科会名と主な討議の内容	世話人
1	<p>子ども支援法時代の子ども支援</p> <p>2012年6～8月にかけて、今後の子どもの健やかな育ちの支援に重大な影響を及ぼすとみられる原発事故子ども・被災者支援法と子ども・子育て支援関連法が成立し、子ども支援は新たな時代を迎えた。それらの特色と課題、昨今の子どもの育ちをめぐる諸問題に注目する必要がある。本分科会では、前段、特に「子ども・子育て支援法に関わるパネリスト討議」を行い、子どもの権利条約に照らして法を精査すると共に、これからの子ども支援のあり方を問う。後段は、各論として、「子どもの文化的環境づくり」、「子ども NPO の意義と課題」、「放射線被曝から子どもを守る取り組み」をめぐる分散会を設け、先駆的な実践をヒントに、検討を深めたい。</p>	<p>今井 雄生 上杉 孝實 大森智恵子 小木美代子 河野 遊 齋藤みどり 荘司 利勝 立柳 聡</p>
2	<p>子育て&親育ち</p> <p>子育て支援・親の学びというと、講義形式や単なる場所の提供であったり、対象が乳幼児期の親子であることが多い。しかし、親の学びというのは公民館をはじめ地域で多様に展開されており、その実践を社会全体で理解し保障していくことが必要と考える。現に学習場所も、公民館・学校・保育所・図書館・地区センター・子育て支援センター・児童館等限定的に考えては収まらない状況であり、実践主体も親・住民・社教主事・教師・多様な子育てネットワークの人々、NPO 等さまざまである。本分科会ではこのような親の学びの実践を報告しあい、親が自ら持つ力を発揮し育ちあうための協同的な学び、そして学びの場の保障について共に考えていくこととしたい。</p>	<p>相戸 晴子 飯泉みゆき 河野 和枝 沢村 紀子 鈴木 玲子 沼野 伸子 榛沢佳代子 吉岡亜希子</p>
3	<p>若者の自立と社会参画</p> <p>新しい感覚と自分たちなりの方法で、まず自分が納得のいくような取り組みを進めていく。いつしか隣にいる奴が愛おしいと思えるようになる。気づいてみれば、身も心も湧き立つような感動に震えている自分もいた。激しい言いあいの中で、他者を受け入れられる、認められる自分の気持ちに気づいた。いくらか社会に役立つことも考えてみる。若者は、みんな傷ついているし、“生きにくい”と感じている。私たちの分科会では、それを乗り越えた若者と出会ってきた。国や自治体や社会も、やっと子育て支援や若者支援の切実な重要さに気づき始めている。若者、学生、若者の好きな大人、自治体職員、社会教育主事、研究者等で進める分科会である。</p>	<p>大坂 祐二 大野祐美子 大村 恵 小川 清貴 小林 平造 櫻井龍太郎 佐々木英之 深谷じゅん</p>
4	<p>高齢者・地域福祉</p> <p>地域団体の加入率が低下し、また地域のつながりの希薄さが顕著になって久しい。また高齢世帯の孤立化や高齢者の「ひきこもり」問題も深刻である。こうした昨今の情勢においては、高齢者問題を狭く現状の社会教育における高齢者教育にとどめては不十分である。社会教育と高齢者の関係を異世代も交えた、他領域との連携を必然とする地域づくりの問題としてとらえることから、「社会教育」の再構築の方向性をも見通すような議論を行ってきたい。本分科会では、公民館などの社会教育関連施設を軸とした地域福祉活動に着目し、全国的に注目される松本市の地域づくり実践に多面的に学ぶとともに、公的社会教育実践の蓄積豊かな地元千葉の実践から学んでいきたい。</p>	<p>岡 幸江 野依 智子 星野 隆弘 松沢 健治</p>
5	<p>障害をもつ人の生涯にわたる学習保障</p> <p>「欲張らず、おごらず地道にそして努力して懸命に生きること。」こそが人間らしく生きることだと締めくくった昨年の高知集会。53回を迎える今年の千葉集会では「人間らしく生きる」ために、日々の暮らしの中でどのような取り組みをしているか。また「してあげる」とか「押しつける」というのではなく、あくまで障害当事者に寄り添い、相互に学びあう中で互いに尊重する関係をどのようにつくっていくか。そして、本分科会のテーマでもある生涯にわたる学習保障がより一層の公的保障への広がりとなるためにはどのような取り組みが求められているのか、そうした課題について討議していく予定である。</p>	<p>小林 繁 高橋 正教 田中 博 中條 尚子 福山 雅己 松田 泰幸 山下要一郎</p>
6	<p>元気な女性が明日をつくる</p> <p>今日の貧困と格差の中、女性たちは地域、家庭、職場で困難な状況に喘いでいる。けれども、残念ながら、この状況を跳ね返すべき学習・交流が活発に行われているとは思えない現状にある。こうした現状を踏まえて、あらためて、公的社会教育での女性問題学習の到達点と今後の課題を明らかにしたい。また、学習支援者としての女性職員の力量アップも図りたい。レポートとしては①八千代の女性史②中、高生対象のデートDV③船橋市二和公民館の婦人学級を予定している。また、まだ展望の見えにくい中、必死で生活を立て直そうと努力している福島的女性たちの現状についても意見交換をしたい。今回、女性分科会は久々の再開でもあるので、現地を含め多くの参加者のもと活発な議論を期待している。</p>	<p>植松 礼子 斉藤友歌里 鈴木 恵子 中藤 洋子 野々村恵子 村木 節子 恵 芙久子 八木 節子</p>

7	<p>平和のための学習・文化活動</p> <p>本分科会では「平和・人権・憲法」問題の学習を積み重ねてきたが、昨年の総選挙で、安倍政権が発足し、これらの問題が危機に直面している。東日本大震災・福島原発事故から2年が経過し、「お金よりも命」という生き方が、またもとに逆戻した感がある。現在のわが国では「憲法改定問題」「国際紛争・領土問題・民族対立」「災害・防災対策・教育問題」「大人社会の構造的暴力としてのいじめと子どものいじめ・体罰」等問題が山積しているが、これらの認識は必ずしも日本国民すべての共有認識にはなっていない。今集会では、現地千葉の実践に学びながら、平和で人権・憲法が活かされる社会の構築のために、「政治」を変える「学習と行動の統一」を考えたい。</p>	<p>高橋 勝彦 田島 治 藤田 秀雄 穂積 健児 三矢本靖子</p>
8	<p>多文化共生・人権尊重をめざす学習</p> <p>取り上げる課題は、「差別を克服し、多文化共生をめざす学習」と「人権としての学習権保障の実質化」の2つで、これらを多文化共生と人権尊重をめざす学習を推進する立場から討議する。房総日本語ネットワークボランティアの取り組みの概要と、また、その中の「日本語を母語としない親と子のための進路ガイダンス in CHIBA」、そして、多文化共生社会の実現とそのための教育の公的保障をめざして全国的な規模で取り組んできた「日本語フォーラム全国ネット」の3つの実践事例報告をもとに、識字問題や日本語学習を含む外国人が抱える多種多様な学習課題、それをとりまく公的保障の問題など、身近で切実な問題を取り上げ、討議を進めたい。</p>	<p>小高みゆき 木村 光夫 徳重 由華 仲江 千鶴 藤田 美佳</p>
9	<p>自治と共同を育む住民主体の学習を創る</p> <p>地域の自治や共同を育むためには、住民の学びとその発展が求められる。しかし、社会環境や地域の状況がいろいろに変化していく中で、住民主体の学びを貫き、広げ、つないでいくことは容易ではない。本分科会では、全国のさまざまな場で行われている住民主体の学びの実践を掘り起こし、住民・職員・研究者で検証し、また、それを支える公的社会教育の役割を考えていきたい。</p>	<p>上野 景三 太田 光紀 小川 則之 金田 光正 菊池 陽子 平井 愛子 松田 武雄 吉川 徹</p>
10	<p>農業とともにある環境の学びと活動</p> <p>この2年「自らの暮らしに関わりのある事柄の決定にとって必要なことを自ら知り、学ぶこと」をキーワードに、公害、災害、と地域づくりにかかわる環境の学習に注目してきた。東日本大震災で津波や液状化の被害を受け、いまだ放射能の影響も懸念されるなかから、いま必要な学びを掘り起こす試みとして、今年は農業とともに考えたい。社会教育はかつて農民自らの学習をささえ、地域の再生、都市生活者との接点の模索などを農業をめぐる学習のなかに包括してきた。いま「環境」は、かつての開発と自然保護という二項対立を超えたものになり、食と農に関する学習も環境や持続可能性の視点から議論される。人がかかわる自然としての環境について討議できたらと思う。</p>	<p>朝倉 征夫 新井 徹 岩松 真紀 中村 亮彦 降旗 信一</p>
11	<p>東京湾で繰り広げられる漁業から学ぶ！</p> <p>東京湾は、1950年代から1970年代にかけて、日本の高度経済成長の時期に、神奈川・東京はもちろん、千葉県も千葉市・市原市・木更津市・君津市を中心に埋め立てられ、江戸前の海は姿を消した。しかし、1970年代に入り、経済の低迷、200カイル問題等で、東京湾漁業の方向が好転した。その中で船橋市漁業協同組合では平成16年度は11億円、その後減少しているものの平成23年度も6億8773万円の漁獲高があった。漁師たちは東京湾で漁をし、大消費地・東京に魚を供給している。本分科会では、船で東京湾に出てアクアラインと海ほたるを眺め海から陸を見つめ、船橋等の意気のいい漁師たちにお話を伺いながら、東京湾と漁業について学ぶ。</p>	<p>栗村 妙子 佐々木昌子 佐藤りゑ子 高梨 晶子 高橋 夏生 中西 あみ 平岩智那美</p>
12	<p>地域文化の創造と社会教育</p> <p>表現・文化活動に何らかの形で触れ、楽しみ学ぶことは、私たちの日々の暮らしに欠かすことのできない営みであり、地域においてその営みを支えることはかわらぬ意義を持ち続けている。今年は、本分科会の40年以上の歩みを振り返りながら、地域文化が社会教育の課題としてどう取り組まれてきたかを考える。また実践報告として、公民館を拠点とした地域の文化活動等で力をつけてきた市民の手により文化振興条例を策定した埼玉県富士見市に注目するほか、地元千葉の活動もとりあげる予定である。これらの検討を通して、劇場法制定など文化行政の動向に変化もみられる中での表現・文化活動の意味について、議論し交流を深めたい。</p>	<p>草野 滋之 四宮 嵩世 東海林照一 新藤 浩伸 畑 潤 山崎 功</p>
13	<p>地域づくりと学校づくり</p> <p>コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の設置がひろがり、地域とつながる学校教育の実践が着実に広がる一方で、東京や大阪などでは学校と教職員に対する管理が強められている。本分科会では、学校を地域に開くことの可能性と課題について自由闊達な議論の場をめざしたい。ひとつは、千葉県・秋津小学校で学校を拠点とした地域づくりに教育管理職として取り組み、退職後も融合研(学校と地域の融合教育研究会)を通してその活動をつづけておられる宮崎稔さん(融合研究会長)から、そしてもう一つは、教職員の立場から、参加と共同の学校づくりにながく取り組んでこられた宮下聡さん(元公立中学教員)より、これまでの経験をレポートしていただく予定である。</p>	<p>荒井 文昭 岸 裕司 児玉 雄治 手島 勇平 廣田 健 松崎 頼行 村田 和子</p>

14	<p>自由な「学び」を支える公民館を、みんなでつくっていきこう！！～全国各地の運動を結び、広げながら～</p> <p>自由に学びあいながら人生や生活を豊かにし、また社会の様々な問題に気づいていく。そういう「学び」を地域で支えるのが公民館だ。公民館でかけがえのない「学び」に出会い、人生を生き生きと変えてきた人々がたくさんいる。様々な社会問題に取り組む市民活動・運動にも、公民館での「学び」で鍛えられ発展してきたものがたくさんある。ところが今、有料化、事業費削減、指定管理者制度導入、首長部局移管など、学びの価値を軽視する公民館施策が広がっている。この分科会では、このような情勢下、「学び」を支えるという公民館本来のあり方を学び、守り、つくっていく各地の運動に注目し、それらを結び、広げていくことをめざす。</p>	<p>荒井 容子 石田 正美 植松 賢也 高橋 伸光 武田 祐子 中野和寿子 原 亮一 水谷 正</p>
15	<p>ほんとうの図書館をめざして、一人ひとりの暮らしに寄り添う図書館～いまこそ、問い直そう！だれのため、なんのための図書館かを～</p> <p>以前にもまして、図書館の話題がマスコミに取り上げられることが多くなってきた。でも、それらを見聞きする度に何か違うような気がしてならない。そもそも、図書館は何のために、だれのためにあるのだろうか？ そのことを抜きにして、図書館のことが取り上げられていいのだろうか。「市民のための図書館」とは、ほんとうはどんなものなのか。マスコミが持ち上げる図書館が果たしていいものなのか。図書館の意味とその可能性を知らしめた浦安の図書館がある千葉県で開催される今集会では、皆さんとともに、いま一度、図書館のあるべき姿、だれのため、何のための図書館について語りあいたい。</p>	<p>石原 照盛 稲場 雅子 井ノ口雄久 金子 恵子 中沢 孝之 西河内靖泰 山重 壮一</p>
16	<p>学習者に寄り添う地域博物館実践を探る</p> <p>本分科会では、(1) 市民による聞き書き講座を展開している浦安市郷土博物館の学芸員の実践、(2) “平塚人物史研究会”の地域社会におけるサークル活動、(3) NPO 法人安房文化遺産フォーラムの“館山まるごと博物館”の活動事例に学ぶ。この際、こうした各実践が、地域住民とどのように関わりを持つようとしているのかを検討する。以上から、地域の生活者が、ともに学習の場を創造していく“ヴィジョン”を描きあい、継続的な活動を築く実践過程を追究する。現代社会の諸課題に関し、学習者に寄り添い“地域に根ざす学習”をめざす博物館実践を相互に模索しあいたい。</p>	<p>栗山 究 後藤 祥夫 齋藤 雅洋 曾我 友良 對馬 由美 端山 聡子 林 浩二 山田龍太郎</p>
17	<p>社会教育職員</p> <p>この間、全国的に社会教育施設の首長部局移管や指定管理者制度導入等が進行する中で、私たちは社会教育職員が非正規化・非専門職化する実態を見てきた。その立場の違いを踏まえた上で、社会教育を担う仕事の質を問い続けてきたが、専門職としての安定した力量形成・発揮の条件整備を目指してきた点に変化はない。この点を再確認しつつ、今回の分科会では正規職員と非正規職員の实態と問題をより丁寧に分析することとしたい。現地千葉から君津市(継続的な常勤専門職採用)と県内の状況、福井県の職員状況(ほとんどが非常勤職員)、東京都西東京市(非常勤の専門的職員が過半数)、これらの事例報告を受けながら、世話人集団として「現状をどう捉え、いかなる方向を目指すべきか」について基調的な提案を行うこととしたい。</p>	<p>會澤 直也 浅野 秀重 片野 親義 佐藤 進 佐野万里子 中川 知子 長堀 雅春 広井 映子</p>
18	<p>自治体改革と社会教育の再編</p> <p>第二次安倍政権は経済・財政・金融政策を前面に出しながらも、いじめや体罰、学力向上を背景に教育再編へと大きく舵を切り、「6年前に改正した教育基本法を踏まえ、現場での具体的な改革」を進めると明言した。また教育委員会制度については、教育再生実行会議の答申をもとに、教育長への権限と責任の集中、一体化などを中教審に諮問した。本分科会では、教委の首長部局移管や公民館の有料化問題が学校教育、社会教育に限らず、自治体改革の重要課題としてとらえ、市民の自由な学びである社会教育活動に与える影響を議論する。また、公的社会教育の重要性をもう一度、原点に立ち返って議論する必要があると考え、自治体社会教育計画の策定に大学と自治体が連携した事例を検証する。</p>	<p>姉崎 洋一 石井山竜平 乾 大樹 川野佐一郎 重森しおり 城田 徹 諏訪 瑞穂 長澤 成次</p>

第3日目 8月5日(月)

■第二全体会(9時30分～12時00分) 場所:千葉大学教育学部2号館1階 大講義室

シンポジウム「人をつなぎ、暮らしと地域をつむぐ」

閉会行事

- ・集会まとめ
- ・千葉集会実行委員会から次回開催地への引き継ぎ

全体交流会（第1日目 8月3日 18時00分～20時00分）

場所：千葉大学生協食堂フードコート（西千葉キャンパス内）

全国各地から参加された皆様同士の情報交換や交流の場として、千葉の美味しい料理を食べながら楽しいひとときを過ごしたいと考えています。

この指とまれ[自由交流会]（第2日目 8月4日 18時30分～20時30分）

この指とまれ[自由交流会]は参加者の発案により開催できます。会場を希望する方は7月26日（金）までに郵送、FAX、Eメールのいずれかで社全協事務局までお申し込みください。

集会の参加お申し込みについて

所定の郵便払込用紙に、必要事項（名前・住所・電話・所属・課題別学習会番号・分科会番号・全体交流会の参加・弁当希望）を記入の上、合計金額を払い込みください。手話通訳を必要とする方、車いす等を利用している方は、備考欄に記入ください。

口座名 社会教育研究全国集会実行委員会 口座番号 00140-5-148793

締切 2013年7月26日（金）

※派遣申請が必要な方は、電話、FAX、Eメールのいずれかで社全協事務局までお申し込みください。

宿泊について

参加される際の宿泊に関しましては、お手数ですが各自で手配をお願いいたします。千葉大学周辺には千葉駅・千葉中央駅を中心に、千葉市役所前駅・千葉みなと駅周辺に多数の宿泊施設があります。ただし、集会期間中は千葉市周辺でのさまざまなイベントと重なっており、宿泊施設が早期に満室になる可能性が予想されます。お早目にホテル等の手配をお願いいたします。

会場へのアクセス

JR 東京	35分 8 駅 総武線（快速）	JR 稲毛	3 分 1 駅 総武線（各駅停車）	JR 西千葉				
京成上野	35分 6 駅 京成線特急	京成津田沼	11 分 5 駅 京成千葉線	京成みどり台				
羽田空港	16 分 1 駅 京浜急行線エアポート快特	JR 品川	45分 10 駅 総武線（快速）	JR 稲毛	3 分 1 駅 総武線（各駅停車）	JR 西千葉		
羽田空港	17 分 1 駅 東京モノレール空港快速	JR 浜松町	6 分 3 駅 山手線	JR 東京	35分 8 駅 総武線（快速）	JR 稲毛	3 分 1 駅 総武線（各駅停車）	JR 西千葉
成田空港	42分 8 駅 総武線（快速）	JR 千葉	3 分 1 駅 総武線（各駅停車）	JR 西千葉				

JR 西千葉駅より教育学部棟まで徒歩約12分 京成電鉄みどり台駅より教育学部棟まで徒歩約9分

詳細および最新の情報は集会ホームページでごらんください。 <http://japse.main.jp/syukai/>

お問い合わせ

第53回社会教育研究全国集会千葉県実行委員会事務局

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学教育学部社会教育研究室（長澤） 電話・FAX 043-290-2568

社会教育推進全国協議会事務局（毎週水曜日 午後1時～午後5時）

〒162-0818 東京都新宿区築地町19番地小野ビル2階 電話・FAX 03-3235-4143

E-mail: japse@nifty.com ホームページ: <http://japse.main.jp>